博士課程教育リーディングプログラム
平成２６年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成２５年度		
申請大学名	九州大学	申請大学長名	久保　千春
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	安浦　寛人
整理番号	Ｐ０２	プログラムコーディネーター名	矢原　徹一
プログラム名	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

１．プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、専門分野での世界でトップレベルの業績、持続可能性に関する広範な知識に加え、専門・学際科学の成果を統合し、課題解決への決断を下すための新たな学識を持ち、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力を備える人材を育成することである。

これからの時代を牽引するグローバルリーダーには、専門分野における世界でトップレベルの業績（専門性）、持続可能性に関する広範な知識（学際性）に加え、専門・学際科学の成果を統合し課題解決への決断を下すための新たな学識（統域性）を持つことが求められており、また、グローバルリーダーには、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力が必要とされている。

これら社会からの要請に応えるために、３つの学識（専門性・学際性・統域性）と４つの実践的能力（国際力・研究提案力・プレゼンテーション力・指導力）を修得できる５年一貫のカリキュラムを提供するとともに、オールラウンド型科学として「決断科学」を開拓し、この科学を軸としてオールラウンド型リーダーを養成する。

本学は、平成７年に「九州大学の改革の大綱案」を決定し、この方針に則り、平成12年にわが国で初めて「学府・研究院制度」を導入した。この制度は、大学院の教育研究組織である「研究科」を教育組織としての「学府」と教員の所属する研究組織である「研究院」とに分離し、従来の学問分野を大きく超えて次代の先端的・学際的教育研究組織の柔軟な構築を可能とするものである。本制度導入後、新たな学府としてシステム生命科学府（平成15年）、統合新領域学府（平成21年）等を新設し、さらに、多くの学府において改組等を行った。また創立百周年にあたり、平成23年に策定したこれからの百年を見据えた「百年メッセージ」において「骨太のリーダー養成」を標榜しており、人材育成の理念として、先見性と俯瞰力の獲得、挑戦する姿勢、創造的な連携の重視、しなやかな行動力を謳っている。

本プログラムは、これまでの九州大学の改革をさらに進め、既存の学府に共通する新たな教育プログラムであり、将来的な「決断科学専攻」の設置を視野に入れた改革構想である。

２．プログラムの進捗状況

(1) 平成26年度は，プログラム担当教員の推薦と一般公募により、春季と秋季に学生の募集を行い、4月から19名の学生（1年次15名、2年次1名、3年次1名、4年次2名）、10月から4名の学生（1年次3名、3年次1名）を受け入れた。
(2) 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター運営委員会の下で、特定プロジェクト教員を採用し、15名が4月1日に着任した。また、国際共同研究実習等を支援する学術研究員1名とテクニカルスタッフ2名を採用し、4月1日に着任した。
(3) 決断科学大学院プログラム支援室の特定有期プロジェクト支援職員を採用し、4月1日に着任した。
(4) 平成27年1月29日に国内外部評価委員会を開催し、決断科学プログラムの教育の理念・計画・実施状況について5名の評価委員による評価を受けた。
(5) 平成27年1月29日～30日に、学生の企画運営による第二回国際シンポジウムを開催した。海外プログラム担当者2名、国際アドバイザリー委員1名を含む、延べ216名が参加し、2日間にわたって英語による討論を行った。また、国際アドバイザリー委員から、決断科学プログラムの教育の理念・計画・実施状況についての評価を受けた。
(6) 平成27年1月30日に、学生の企画運営によるプレゼンテーション大会を開催した。外部審査員として富士通研究所R&D戦略本部シニアマネージャーの岡田誠氏とアビームコンサルティングの下村雄吾氏を招き、英語プレゼンテーションを含む発表を行い、審査を受けた。
(7) 平成26年8月23日～8月31日、平成27年2月25日～3月5日に健康モジュールによるバングラデシュ実習（学生6名参加）、平成27年2月28日～3月8日に健康モジュールによるフィンランド実習（学生5名参加）、平成26年9月5日～13日、平成27年2月9日～18日に環境モジュールによるカンボジア実習（学生14名参加）、平成26年11月21日～25日、平成27年2月25日～28日に統治チームによる韓国実習（学生7名参加）、平成26年8月24日～30日に災害モジュールによるインドネシア実習（学生9名参加）、平成27年2月11日～2月19日に総括チームによるメキシコ実習（学生6名参加）を実施した。実習に参加した学生は、上記国際シンポジウムにおいて英語による成果発表を行い、報告書・レポートを作成した。
(8) 合計25回の国内実習を行った。環境モジュールは屋久島実習、災害モジュールは佐賀実習、広島実習、東北実習、健康モジュールは久山町実習、統治モジュールは、八女実習、対馬実習、人間モジュールはドミトリーⅢにおいて心理学系実習を行い、報告書・レポートをそれぞれ作成している。
(9) 組織研修ワークショップを対馬、宮崎県日南市、屋久島で行った。また、平成26年11月14日～15日に本学において京都大学と慶応大学との3つのリーディングプログラム教員・履修学生と合同でシンポジウムを開催した。
(10)学生の自主的教育・研究活動を募集し、9件の研究・教育課題に関し、学生が独自の取り組みをした。